

週刊プレイボーイ連載

「追及！耐震偽装事件の真実」第2回  
ヒューザー小嶋進は

なぜあのとき（国会参考人招致）

「ふざけんじやないよ！」と叫んだのか？

ルポライター・明石昇二郎

&ルポルタージュ研究所

『週刊プレイボーイ』2011年4月4日号)

## 「偽装シナリオ」の 生みの親

今から5年ほど前、2005年12月に発覚した「耐震偽装マンション・ホテル」事件――。あの時、筆者が気の毒に思えてならなかったのは、問題のマンションをローンで購入し、暮らしていた人々だった。

耐震偽装マンション名が公表され、そのマンションが建つ地元の市長・区長から「使用禁止命令」が出されたため、退去を余儀なくされた人は多い。我が家を取り壊されるといふ悲劇に加え、その家と新たな家のローンを同時に支払わなければならぬ「二重ローン」問題も発生していた。住民たちには何の罪もなかったのに、だ。

その「耐震偽装」事件が世間に広く知られるきっかけは、05年11月17日に国土交通省が開いた緊急記者会見である。中でも衝撃的だったのは、

「震度5強で倒壊の危険」(『毎日新聞』05年11月18日付朝刊1面見出し)

があるマンションやホテルが多数存在する――と発表されたことだ。この国交省の発表を受け、のちに取り壊される運命をたどった分譲マンションの数は12棟にのぼる(国交省調べ)。

そして、この記者会見の根拠となるデータや情報を国交省に提出していたのが、民間の建築確認検査機関・イーホームズ株式会社だった。

同社が一級建築士・姉齒秀次氏の耐

震偽装行為を見抜いたのは、姉齒氏と仕事で競合する同業他者からのタレコミが発端だった。国交省記者会見の前月、05年10月の話だ。

このタレコミを受けてイーホームズは、姉齒氏が耐震構造計算を請け負い、同社で建築確認を行っていた物件を調査。すると、20棟ものマンションで耐震偽装が確認される。しかも、そのうちの13棟はすでに完成していた。検査機関でありながら偽装を見逃してしまったイーホームズは、姉齒氏の違法行為に「お墨付き」を与えていた格好になる。

とはいえ、この耐震偽装事件は、イーホームズの内部調査がなければ今なお闇に包まれたままだった恐れがある。国交省の独自調査で耐震偽装が明らかになったわけではないからだ。その意味で、イーホームズは検査機関として**いい仕事をした**――とは思おう。

しかしイーホームズは、内部調査でつかんだ情報や分析結果を社外に公表する段になって、重大な誤りを犯した。

\*

姉齒氏による偽装の善後策を検討すべく、イーホームズとヒューザーの間でトップ会談がもたれたのは、05年10月27日のことだった。イーホームズの藤田東吾社長はその前日の心境を、自書『完全版 月に響く笛 耐震偽装』(講談社刊)の中で正直に告白している(太ゴチックは筆者)。

「(ヒューザーの)曾我常務が、ゼネコンや姉齒の偽装によって浮いたコストから**マージン**をバックしてもらっていたのではないか、僕はそんな推測もした」

「もし会社ぐるみの偽装であった場合、**彼らが口封じを目的として僕らを身の危険に晒そう**としてくるという最悪のケースも考える必要があった」

といった具合である。

だが、筆者がヒューザー関係者から

当時の帳簿類を入手し、検証してみたところ、姉齒氏の偽装によってヒューザーがコストダウンしていた事実は見つからなかつた。それどころか、かえって割高になっていた物件まで見つかった。また、ヒューザー内に姉齒氏からバックマージンを得ていた者も存在しなかつた。今にして思えば、藤田氏はかなり見当違いの「推測」をしていたわけだ。

藤田氏は国会での参考人招致の際、「もし偽装が意図的・人為的に行なわれるのであれば、一番利益を得るのはデベロッパー（開発業者）だろう」という読みの下、耐震偽装の主犯をヒューザーと想定し、調査していたことを明らかにしていた。

つまり、「姉齒十建築会社＋ヒューザーによる組織犯罪」という構図を最初に描き、言いふらしたのは藤田氏だったのだ。彼にとつて最大の誤算は、報道によって最後は「自分までがその一味」と疑われるハメに陥ったことだろう。

\*

藤田氏の著書は、自分が作り、育てたイーホームズを何としても守り通したかつたという思いで溢れている。が、その思いが同時に、ヒューザー小嶋氏を見る目を曇らせたのかもしれない。事件への対処で奔走する藤田氏の姿は、偽装を見逃してしまった責任を転嫁する先を必死で探していたように筆者には見える。

### 小嶋氏、 初めて姉齒氏と会う

イーホームズ藤田社長とヒューザー小嶋社長のトップ会談が行なわれる2日前の05年10月25日、小嶋氏は姉齒氏と初めて会っている。

その日、姉齒氏の耐震偽装を確信したイーホームズはヒューザーに対し、完成間近だったマンションへの検査済

証、すなわち「お墨付き」は与えられないと通告してきた。検査機関のお墨付きがなければ、そのマンションは販売できない。

その理由を小嶋氏が知ったのは、ヒューザーが取引していた設計事務所代表I氏からの電話での報告がきっかけだった。

「下請に姉齒という構造屋を使っているんですが、とんでもないことをやっていたんで、これから小嶋社長のところに来ていきます」

I氏に連れられてヒューザー本社にやってきた姉齒氏は、仕立てのよさそうな深緑色のチェック柄のジャケットを上品に着込み、下半分の縁がない眼鏡をかけ、無表情な顔だったという。小嶋氏は、当時の備忘録を残していた。その一部を抜粋して紹介しよう。

\*

「『このたびはご迷惑をおかけして申し訳ない』といった挨拶もない。彼は、偽装を知って憤る元請もとうけの設計事務所の

I先生の興奮ぶりとはあまりにも対照的に落ち着き払っていたので、私は戸惑った。何を聞けばいいのかすらわからなかった。

『先生、何をしたんですか？』

『テイゲン…』

『えっ？ テイゲン？』

俯うつむきながら、聞き取れないほど小さな声だった。はじめは『提言』なのか『低減』なのかわからなかつたが、きつと何かを『低減』したのだろうと思いつながら質問を続けた。

『何を低減したんですか？』

『…』

『間違えたのですか？ わざとやったのですか？』

『…』

何も答えない姉齒氏に対し、私は質問を変えることにした。

『誰かこのことを知っているんですか？』

『誰も知りません』

『木村建設は知っている？ 元請の設計事務所は？』

『知りません』

『先生がいったい何をしたのかわかんないけど、わざとやったのと、間違えたのとは問題の本質が違うと思うんです。どっちなんですか？』

『…』

ニワトリとでも会話しているような気がしてきて気味が悪くなった。私は、彼に渡した名刺を返してもらおう。

翌日の10月26日、イーホームズが『小嶋社長に来てほしい』と言ってきた。最初は、今日でも明日でもいつでもいいと思ったが、先方がミスをしたのになぜ私が出向かなければならないのだと思ひ直し、部下に対し、『間違えたほうが謝りに来るのが筋だろう。向こうからこつちに来るようアポを取り直せ』と、叱りつけるように指示した。

結局、イーホームズ社長のほうが翌27日午前11時に来ることになり、

『よっしゃあ、社長が謝りに来るとなれば、問題は解決したようなもんだ。あとは俺に任せろ』

と部下に笑いながら言った。この日の晩は「前祝い」として、業務の部下連中と飲み、したたかに酔った。

\*

「身の危険」を感じるほど疑心暗鬼に陥っていた藤田氏とは対照的に、小嶋氏は実にあっけらかんとしたものだ。そしてこの翌日、ヒューザー本社にやってきた藤田氏を、小嶋氏はのっけからどやしつけた。

「ふざけんじやないよ！」  
と叫んだ理由

彼の怒りの矛先は、耐震偽装を行なった姉齒氏本人ではなく、イーホームズに向けられた。ヒューザーから見れ

ば、マンションの完成間近に突如「検査済証は出せない」と言ってきたイーホームズは、偽装を見逃しておきなから責任だけは人に押し付けようとする不屈き千萬な「ザル検査機関」に他ならなかった。

一方、イーホームズでは偽装を見逃してしまった原因を、国土交通省の大蔵大臣が認定していた「耐震構造計算プログラム」(計算ソフト)の欠陥にあると考えていた。つまり、**自分たちは悪くない**と思っていたのだ。

あの日の会議に同席していた関係者は語る。

「小嶋さんは開口一番、『てめえら、いい加減な仕事やっついて何を言うか。この野郎!』と、べらんめえ口調でやっってしまった。藤田さんも『いや、そうは言っても』と引かない。それで、会議は終わってしまった。これが、その後のお互いの不幸を招いたのだと思います」

\*

この日のバトルのことを藤田氏は、事件の公表を控えるよう小嶋氏が「圧力をかけてきた」と認識し、国会での参考人招致の際にもそう証言した。おまけに藤田氏は、事件の主犯をヒューザーと睨んでいたことまで滔々と語ってしまった。

そんな根も葉もない陰謀説を国会の場でぶち上げる藤田氏は、小嶋氏から見ればふざけた存在以外の何者でもなかった。小嶋氏の「ふざけんじやないよ!」発言は、いわば彼の**“魂の叫び”**だったのだ。

だが、誰にもそう受け取ってもらえなかった。それどころか、偽装がバレて開き直る極悪人——と世間に思われしてしまう。

それが、小嶋氏にとっての最大の悲劇だった。(続く)

配信元…ルポルタージュ研究所

Copyright (C) 明石昇二郎  
URL : <http://www.rupoken.jp/>